

全校朝会講話 「少しの工夫と手助けで」

全校のみなさん、おはようございます。

このところ続けて自分や友達の「よさ」について話をしてきました。

今日は、まず、私の「苦手なこと」から話します。

私は、子どものころから、人の顔と名前を覚えることがとても苦手でした。何回か会ったことがある人でも、「あれ?誰だったかな?」ということがしょっちゅうありました。

ですから、人と出会ったとき、相手が名乗ってくれるととても安心しました。

もしかしたら、自分と同じような苦労をしている人もいるかもしれないと思って、今では、できる限り自分から立場と名前を相手に伝えるようにしています。

もう一つ、同じ場所にじっと座っているということもかなり苦手でした。何となく落ち着かなくなってしまって、集中力も落ちてしまうのです。だから、授業中にちょっと立ち上がっていい活動などがあると、とてもホッとしました。中学生や高校生の頃、家で勉強するときは、「何時になったら少し他のことをする」と先に休憩時間を決めていました。そうすると、がんばれるのです。

人には誰にでも苦手なことがあるものです。みなさんにもあるはずです。そして、その苦手なことは、人によって違います。自分では、「できてあたりまえ」と思っていることでも、他の人にとっては、とても苦手なことだということもあります。

ただ、苦手なことでも、ちょっと工夫をしたり、誰かの助けがあったりすれば、大きな苦労をすることもなく、みんなが同じように生活することができる場合が多くあります。

今度の4月、多聞小学校には『ひだまり学級』という新しい学級ができます。この学級は、とても人数が少ないクラスです。また、いろいろな学年の人気が集まって一つのクラスがでています。今、みんなが生活しているクラスとはずいぶん違う形ですね。

このクラスには、たとえば、目に見えるいろいろなものや聞こえてくるいろいろな音、周りの人のちょっとした動きなどが気になってしまい、集中して何かをすることが苦手な友達がいます。また、他の人から見ると「あれっ?」と思うようなタイミングで声が出てしまったり、体が動いてしまったりする友達もいます。でも、ちょっとした工夫や手助けがあれば、みんなと同じように楽しい学校生活を送ることができます。そして、得意なこと、すばらしい力もたくさんもっている友達です。

みんな同じ、多聞小学校の仲間です。仲間が増えること、私はとても楽しみにしています。

『ひだまり学級』の友達は、交流学習という形でみんなと一緒に勉強したり、休み時間に一緒に遊んだりすることもあります。まず、お互いのことをよく知り合えるように、仲良くしていってほしいなあと思っています。よろしくお願ひしますね。

これで、お話を終わります。